

## 松江総合医療専門学校 学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和5年6月27日（火） 10：20～12：00
2. 出席者：【委員】 上田 正樹、小林 央、多久和 宣久、  
松浦 幸嘉、宮田 裕輔  
【学校】 理事、学校長、副学校長/作業療法学科学科長、事務局次長  
理学療法学科学科長、看護学科学科長、  
総務課長、教務課長、経理
3. 次 第：
  - ・開会
  - ・学校長 挨拶
  - ・出席者紹介
  - ・学校概要
  - ・事業報告
  - ・自己評価
  - ・質疑応答
  - ・閉会

次第に沿って進行し、意見交換、質疑応答を行った。

### ■意見交換、質疑応答

#### 【A委員より】

- ・国家試験に不合格だった場合、卒業後もフォローしているということだが、再挑戦の学生の合格率はどうか。

(回答)

- ・学校に来て学習している卒業生については、全国平均並みの合格率である。

(A委員)

- ・卒業生の国家試験のフォローアップをされているので、もっとアピールしたら良いと思う。

#### 【B委員より】

- ・臨床現場で本校の卒業生をみていると、優秀な学生が多いと感じている。
- ・メンタル面のサポートが必要な学生が増えているのか。

(回答)

- ・コロナ禍になってから、優しい学生が多いと感じている。メンタル面サポートが必要な学生については、個室で勉強してもらったり、保護者と密に関わりながら、継

続的に学校に来ることができるようサポートしている。保護者と連携しながら学生をみていくことが大切だと思う。

メンタルサポートが必要な学生について、精神的苦痛で退学する学生より、本校に入学し学校に通えるようになったという学生が多い。

また、経済的に就学困難で、資格を取得し将来家計を支えなければならないという学生についても、いかに3年間で育てて地域に輩出するか等、色々と考えさせられる。

(B 委員)

- ・オープンキャンパスで、参加者には学校の特色や職業の特色が伝わると思うが、高校の先生を対象とした見学会をされたと聞き、進路指導をされる高校の先生がより理解を深めていくための取り組みは大切と改めて感じた。

(回答)

- ・今後も続けていきたい。

【C 委員より】

- ・学校に通えない学生と学校に通えるようになった学生が話しをできる場があると良いと思うがどうか。

(回答)

- ・欠席が多い学生にはクラスの皆が励ましたり、教員が欠席しがちであった経験を持つ先輩に声掛けをし、欠席がちな後輩に対し声をかけをする等、学生同士の関りが持てるよう、各学科取り組んでいる。

C 委員がおっしゃるように、学生同士で話す方が良い時が沢山あるので、そのような関わりをしている。

(C 委員)

- ・日頃から理事長が言われている、面倒見の良い学校が浸透する必要があると思う。先ほどメンタルの話が出たが、先日 ChatGPT の話が医療において出ており、医師よりも ChatGPT の方が対応が良かったという話があった。それは、ChatGPT は労りの言葉から入ったからというのが一番の理由だった。しかし、AI にも限界があり、やはりそこには人が介入する必要があると思う。ChatGPT を例にとったが、このような労りの言葉がけなどをもっと教育に取り入れることで、退学率も減少していくのではないかと。
- ・松江総合医療専門学校の SNS をみさせてもらっているが、学内外の学生たちが生き生きとしていている様子が、よくわかる。とても発信力が強いと思うので、非常に良いと思う。今後、学生の意見も取り入れながら、運営に生かしていただきたい。

- ・総合型選抜 (AO) 入学試験の受験者の上限があれば教えていただきたい。

(回答)

定員の二割程度としている。評定、モチベーションの高い学生が多く入学した。

【D委員より】

- ・毎年健康フェスティバルを開催しており、学生にお手伝いいただいている。昨年はタオル体操をしていただき、大変好評であった。地元ですばらしい教育施設があるということを誇りに思い、先生方や学生と交流を深めていきたい。
- ・先日大野地区の総会を5年ぶりに開催し、看護学科の学生と楽しく交流ができた。後日学生からお礼状をもらい、「自分たちも交流ができて良かった。社会に出ていくための経験をさせてもらって良かった。またこういう機会があればぜひ参加したい」という言葉もあった。高齢者クラブで機関誌を作り、お礼状を掲載し配布する予定にしている。今年も健康フェスティバルを開催する予定なので、ぜひまたご協力いただきたい。

(回答)

- ・コロナ禍で外に出ることが少なかったが、地域の方々とふれあうことの楽しさやその後の勉強につながった。D委員がおっしゃったように、ぜひまたこのような機会があれば参加させていただきたい。

【E委員より】

- ・学力や技術がやや劣っている学生に対して、学内ではどのように指導しているか。

(回答)

- ・どのような方法で教えると最大の目標である資格取得ができるか、全学科の教員が計画的に考えながら行っている。国家試験の傾向や過去の国家試験対策も振り返りながら、何としても合格させたいという気持ちで取り組んでいる。最近の学生は動画慣れしており、何度も見返すことができるオンデマンド講座を取り入れている。様々な情報がある中で、何が一番学生にとって良いかを日々検討しながら取り組んでいる。

以上

**【外部委員】**

米田 ときこ	保健師・看護師
上田 正樹	松江市立病院リハビリテーション部 部長
小林 央	一般社団法人 島根県作業療法士会 会長
多久和 宣久	地域代表
松浦 幸嘉	しまね信用金庫 事業支援部 部長
宮田 裕輔	松江赤十字病院 看護師

**【内部委員】**

安藤 瑞也	理事
松浦 昌代	学校長
片山 優子	副学校長/学科長（作業療法学科）
須谷 浩一	事務局次長
内田 武	学科長（理学療法学科）
石倉 清乃	学科長（看護学科）
藤原 ゆき絵	総務課長
野津 慶子	教務課長
松本 泰洋	経理